

令和7年度

県営土地改良事業変更計画概要書

(農業用ため池整備事業)

- I 計画変更内容
- II 計画変更を必要とする理由
- III 変更後の土地改良事業計画の概要
- IV 造成される土地改良施設の予定管理方法等
(注；ダムその他のえん堤及び揚水施設を造成する場合)
- V 事業費の負担区分の予定及
び地元負担の予定基準

狐坂乙地区
広川町

I 計画変更内容

狐坂乙地区土地改良事業変更計画概要 (農業用ため池整備事業)

項目	変更前			変更内容	変更後			
地区面積	2.7 ha			地区編入面積	0.0 ha			
				地区除外面積	0.0 ha			
				合計	2.7 ha			
主要工事 計画	工種	事業量	単位	増減	工種	事業量	単位	
	堤体工	50.0	m	0.0	堤体工	50.0	m	
	取水設備工	27.1	m	0.2	取水設備工	27.3	m	
	仮設工	471.0	m	-15.6	仮設工	455.4	m	
工事着手 及び 完了年度	自 令和5年度				自 令和5年度			
	至 令和8年度				至 令和10年度			
	4ヶ年				6ヶ年			
事業費 (事務費 含む)	190,000 千円			185,000千円増	375,000 千円			

II 計画変更を必要とする理由

1. 地区面積の変更

2.7ha → 2.7ha 変更なし

2. 主要工事計画の変更

(1) 工法の変更

1. 線形変更による底樋下流取付水路の形状変更による工事費の増。
 三面張水路 B1.8×H2.0 112m → BOXカルバート B1.1×H1.8 120.0m
 表面排水路工 U型側溝 B0.3×H0.3 119.4m
2. ため池工事における、仮設工の施工増による仮設事業費の増。
 仮設工(仮締切堤) L=48m ヤード内地盤改良工, 仮締切堤地盤改良 A=1,165m²
 仮排水路工 L=62m

(2) 事業量の変更

1. 実施設計に伴う精査の結果、堤体工事事業費の増。
2. 実施設計による精査による取水設備事業費の増。底樋工=27.1m → 底樋工=27.3m
3. 施工出来高の精査及び計画変更による仮設工事業費の増。
 工事用道路 L=471m → 工事用道路 L=455.4m
4. 設計変更に伴う委託費の増及び建物事前事後調査の増による測量試験費の増。
5. 用地補償費精査に伴う用地補償費の減。
6. 実施設計による精査による工事雑費の増。

3. 事業費の変更

上記をはじめとする変更により総事業費の増
 190,000千円→375,000千円 増185,000千円

III 変更後の土地改良事業計画の概要

(農業用ため池整備事業)

狐坂乙 地区

第1章 目的

本地区の狐坂乙池の現堤体は、法面保護工がなく、経年的な波浪による浸食で断面が欠面し、洪水吐も、老朽化に加え、設計洪水量を流下させる能力が不足しており、洪水時には決壊のおそれがある。また、取水施設は、木栓取水であり、操作に支障を来しているとともに、緊急放流機能を有しておらず、安全性に欠ける状況である。本池の現堤体断面の欠面、洪水吐の老朽化・能力不足、緊急放流設備未設置の状況等から、洪水又は地震発生時の安全性に懸念がある。近年、集中豪雨が頻発している上に、不測の地震発生のおそれもあり、洪水や地震発生により本ため池が決壊した場合、下流農地に与える被害は甚大である。そのため、本ため池の安全性を確保し、下流農地への危険性を除去するために、早急な整備の必要がある。

第2章 地域の所在及び現況

(1) 地域の所在

福岡県八女郡広川町大字藤田

(2) 現況

① 地形

本地区は八女郡広川町藤田地区に位置する。

広川町は、福岡県の南部、筑後地方の中央部に位置しており、東に背振山地、南に筑後山地が広がり、西側には筑後川下流域を構成する広大な筑後平野が広がっている。

広川町の東部は耳納山地の山岳地であり、中部から西部は台地～丘陵地が広がっている。南部に広川の両岸に形成された低地が分布している。

本地区は、広川町西部に位置しており、耳納山地西方に広がる台地～丘陵地であり主に住宅地や畠地となっている。

② 土質及び土壤

広川町の位置する筑後地区の地質は、古期岩類の分布で特徴づけられる。筑後地区に分布する耳納山地と筑後山地には古生代～中生代の基盤岩が広く分布しており、これらを第三紀層が不整合又は非整合に覆っている。基盤岩は古生代の三郡変成岩類が主体であり、中生代白亜紀の花崗岩類がこれに貫入している。

三郡変成岩類は結晶片岩と呼ばれる、板状～片状に剥離しやすい特徴を持つ岩石で特徴づけられる地層群である。結晶片岩は堆積岩や火山岩が低温高圧下で鉱物の再結晶化で定義づけられる変成作用を受けて形成されたもので、変成作用を受ける前の岩石の種類をもとに、泥質片岩、砂質片岩、石英片岩、塩基性片岩等に区分される。また、あまり片状～板状に剥離しない変はんれい岩や蛇紋岩といった岩石も分布している。

花崗岩類は福岡県西部～中部の背振山地及び三郡山地に広く分布する岩体の一部であり、耳納山地や筑後山地では分布は限定的である。塊状緻密な岩石であり、新鮮部では良好な健岩となる。しかし風化耐性が低く、地山深部まで風化・土砂化する深層風化をしていることが多い。

本地区付近の表層地質は、高位段丘堆積物(th)と三郡変成岩類の泥質片岩(m2)であり、基盤として古第三紀の堆積岩類である直方層群(E)が分布している。

③ 気象

気象概況については、風向は北東よりの風が多く、気温は、年平均で16～17°C前後と比較的温暖で、降雨量は年平均で、1900mm程度である。

④ 水利状況

流域内に降った雨水により貯水し、現況の取水施設を使って下流側農地をかんがいしている。

⑤ 営農状況

ため池下流に東西に延びる農地が広がっており、米を中心とした土地利用型農業が行われている。

⑥ 地域環境の概況

広川町は、福岡県の南部、筑後地方の中央部に位置しており、東に背振山地、南に筑後山地が広がり、西側には筑後川下流域を構成する広大な筑後平野が広がっている。広川町の東部は耳納山地の山岳地であり、中部から西部は台地～丘陵地が広がっている。南部に広川の両岸に形成された低地が分布している。

第3章 基本計画

(1) 計画の要旨

本事業は、堤体、取水施設及び洪水吐の改修を行うことにより、ため池決壊による被害を未然に防止し、地域の安全性を確保すると共に、農業用施設としての機能を改善する。

(2) 土地利用の現況及び計画

(単位：ha)

地 目		田	畠	原野	山林	その他	計
面積	現況	2.7					2.7
	計画	2.7					2.7

(3) 主要工事計画

工種	構造及び規格	数量
堤体工	堤高H=7.55m、堤長L=50.0m 堤頂幅W=3.6m、傾斜遮水ゾーン型 波受工A=429m ²	一式
取水施設工	堅樋 斜樋管 φ 200 L = 2.0m 底樋 φ 1,200 L = 27.3m 取水孔 φ 100 N = 3孔 土砂吐 800×800 緊急放流孔 φ 250 N = 1孔 BOXカルバート B 1.1m × H 1.8m U型側溝 B 0.3m × H 0.3m	L=29.3m
洪水吐工	取水施設と兼用	

(4) 環境への配慮

- 工事実施前及び工事実施中に希少動植物を発見した場合、近傍の生息可能域へ移動する。
- 工事実施時期は、池内の濁筋などを活用した生息・生育場所を確保する。
その際、可能な限り水深及び止水環境の確保に努める。
- 工事実施後は可能な限り速やかに、水位回復に努める。

第4章 工事又は管理の要領

(1) 工事の要領

堤体については、下流側に浸透水排水促進を目的とした下流法先ドレンを設置する。また、上流側については、より安定的な勾配を確保するとともに、上流面の法面保護のため、堤頂から最低水位までの標高にブロックマットを設置する。

取水施設については、底樋をφ1200mmのヒューム管で改修し、管体は鉄筋コンクリートで巻き立てて水密性及び耐久性を確保した上で、堅樋（取水管φ200）を設置し緊急放流設備及び洪水吐の機能を兼用させる。

(2) 管理の要領

① 予定管理者

広川町

② 管理すべき施設の種類

名称	位置	種類	備考
狐坂乙池	八女郡広川町大字藤田	堤体、取水施設（洪水吐兼用）	

③ 管理に要する費用及びその負担方法

管理に要する費用	負担方法
施設の維持管理、補修に必要な経費	広川町及び地元負担

(3) 工期

令和5年度～令和10年度

第5章 換地計画の要領

該当なし

第6章 費用の概算

(1) 事業費の概算

事業費	357,000 千円
事務的	18,000 千円
経費計	375,000 千円

(2) 負担割合

(単位：%)

費用・区分	国	県	市町村	受益者
事業費	55	30	15	
事務的経費		100		

第7章 効用

(1) 年総効果額

項目	区分	年総効果額(千円)	年增加所得額(千円)
食料の安定供給の確保に関する効果		△ 51	4
作物生産効果			
営農経費節減効果			
維持管理節減効果		△ 51	4
農業の継続的発展に関する効果		18, 441	—
災害防止効果(農業関係資産)		18, 441	
農村の振興に関する効果		25, 555	—
災害防止効果(一般資産)		25, 555	
多面的機能の発揮に関する効果		1, 196	—
災害防止効果(公共資産)		1, 196	
計		45, 141	4

(2) 投資効率

項目	区分	算式	数値
総事業費		③=①+②	304, 306 千円
当該事業による費用		①	330, 400 千円
その他費用(関連事業費+資産価額+再整備費)		②	△ 26, 094 千円
年償還額		④	— 千円/年
うち機能向上分		④'	— 千円/年
年総効果(便益)額		⑤	45, 141 千円/年
現況年総農業所得額		⑥	375 千円/年
年増加農業所得額		⑦	4 千円/年
評価期間(当該事業の工事期間+40年)			46 年
割引率			0.04
総便益額(現在価値化)		⑧	1, 060, 449 千円
総費用総便益比		⑨=⑧÷③	3.48
総所得償還率		⑩=④÷⑥	— %
増加所得償還率		⑪=④'÷⑦	— %

第8章 他の事業との関係

該当なし

第9章 計画概要図

別添図面のとおり

IV 狐坂乙地区土地改良（農業用ため池整備）事業によって造成された施設の予定管理方法等

1 管理者

広川町

2 管理すべき施設の種類

狐坂乙池

工 種	構造及び規格	数 量
堤体工	堤高H=7.55m、堤長L=50.0m 堤頂幅W=3.6m、傾斜遮水ゾーン型 波受工A=429m ²	一式
取水施設工	堅樁 斜樁管 φ 200 L = 2.0m 底樁 φ 1,200 L = 27.3m 取水孔 φ 100 N = 3孔 土砂吐 800×800 緊急放流孔 φ 250 N = 1孔 BOXカルバート B 1.1m × H 1.8m U型側溝 B 0.3m × H 0.3m	L=29.3m
洪水吐工	取水施設と兼用	

3 貯水、放流、取水又は排水に関する基本的事項

雨水等自然流入より貯水し、大雨時は水路を通じて自然排水される。
また、取水施設を操作することによりかんがい期間中は取水を行う。

項目	数 値	備 考
貯水量（有効貯水量）	7,353 m ³	
取水量	0.013 m ³ /s	
排水量（設計洪水量）	2.46 m ³ /s	

4 管理に関する費用の概算及びその負担方法

通常の維持管理費は受益者が全額負担する。消費税込み10万円以上の修理・改修費は広川町が全額負担する。

5 その他管理に関する基本的事項

予定管理者（広川町）、受益者間で協定書により定める。

Ⅴ 狐坂乙地区土地改良（農業用ため池整備）事業における事業費の負担区分の予定及び地元負担の予定基準

1 事業費及び事業費の負担区分の予定

(1) 事業費

総事業費375,000千円（内事務的経費18,000千円）

（令和7年度単価：物価変動により将来変動することがある）

(2) 負担区分の予定（単位：%）

区分	負担区分				備考
	国	県	市町村	地元	
事業費	55	30	15		
事務的経費		100			

2 地元負担の予定

基準該当なし

3 特別徴収金

該当なし